

○「低コスト林業の推進に向けた現地検討会」を開催

10月12日（金）、三八・上北流域森林林業活性化センターと当署の共催による「低コスト林業の推進に向けた現地検討会」を東北町字清水目深山国有林1070林班、東北町森林組合による生産請負実行箇所において開催しました。

当日は、前日の雨も上がり森林組合、林業事業体、地方自治体関係者などから約80名が参加しました。

今年で7回目となる当署の現地検討会では、一昨年策定された森林作業道作設指針に基づく森林作業道の作設方法について普及・定着を図ることを目的に開催しました。

佐藤森林管理署長、桑原森林林業活性化センター会長、森林管理局角掛販売課長の挨拶の後、一ノ宮間伐推進企画官による森林作業道の考え方を説明し、バックホウによる森林作業道作設の実演のほか、軟弱な路盤に対応する枝条等の敷設、洗い越し、丸太での簡易な横断工などの説明を受けながら意見交換を行いました。また、三八地域県民局渡辺主査からは、森林作業道の路体調査について説明がありました。

森林・林業再生プランは、路網の整備、森林施業の集約化、人材の育成を3本柱としています。2020年までに木材自給率50%以上を達成するためには、合理的な路網整備、効率的な作業システムを進めて行く必要があります。

今後もこの様な検討会を開催しながら、森林・林業再生プランの実現に向け、地域林業に貢献できるよう連携した取り組みを進めて行きたいと考えています。



三八・上北活性化センター桑原会長の挨拶



バックホウによる森林作業道作設



枝条材を利用した路盤強化の検討



丸太を利用した簡易な横断工の検討